



ふじもとともこ
藤本智子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

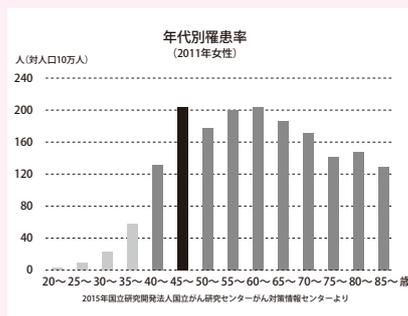
検診の充実で市民の健康と暮らしを守れ

問 乳がん検診は、60歳を過ぎると1年おきしか受けられない。60歳を過ぎても乳がんの発症率は高い。毎年受けられるよう見直しを。また人間ドックや脳ドックの助成制度を創設し、詳細な検査を望む要求に応えるべきだ。早期発見・早期治療が原則であり、本人や家族の幸せ、行政からすれば医療費・介護費用の抑制の観点もある。県内他市のように助成制度を実施せよ。

答 乳がん検診については、国の指針により有効性が示されている乳房エックス線検査と若い方に効果があるエコー検査の現状の継続を考えているが、来年度の検診に向けて、医師会との協議、国の方針、今回いただいた意見等を踏まえ、検診体制について検討したいと考えている。また、人間ドックや脳ドック助成制度については、現在行っていないが、特定健診と各種がん検診の同時実施や検査項目を増やすなどドックに近い状況で受けていただけるよう配慮している。助成制度が、どのような形で医療費の削減につながるのか、また国保財政や後期高齢者医療財政全体への影響を見ながら、しっかりと判断し、結論を出していく必要があると考えている。

●その他の質疑・質問●

- 小中一貫教育の検証を
 - いじめ、不登校率の減少、学力向上に向かっているのか
 - 教員の多忙化解消と逆行していないか
 - 小中一貫校における小学校高学年のリーダーシップ育成の課題にどう取り組むのか
 - 幼稚園における支援員の増員を



▲60歳を過ぎても乳がんの発症率はまだまだ高い



おおのひろし
大野寛

しんわかい
津和会

県立一志病院への津市の今後の対応は

問 津市は平成24年度より三重大学の協力のもと、津地域医療学講座（寄附講座）を設置し、地域医療の確立を図り、一志病院の診療体制の向上に寄与してきた。今年度で寄附講座が終了するが、未だ盤石の体制とは言えない中、津市の応援は必要不可欠である。地域医療、総合医療を継続させるべく応援するのが当然と私も地域の方も思っているが、今後の対応は。

答 一志病院が、白山、美杉地域の地域医療に対して果たしている役割は大きく、診療体制の充実に向けた医師確保や家庭医の人材育成を一つの目的として寄附講座を設置し応援をしてきた。今後も一定の財政負担をしながら、地域医療を維持していくための準備や覚悟があることを、8月に行われた知事との一対一対談でも伝えたところである。また、地域医療のあり方は、津市だけが財政負担をしていくということではなく、政治家の皆さんにきちんと理解をしていただき、特に県議会議員の皆さんには、県の病院であり、県の地域医療に対する責任について議論をしていただきながら、この問題が解決に向かうよう、総力を上げ皆さんと連携しながら進めていく。

●その他の質疑・質問●

- 津市バイオマス産業都市構想に関する旧津市衛生中継所に係る棧橋の活用および間伐材による発電事業の現況は
- （仮称）津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略（案）における各施策別目標設定値の算出基準は



▲津市西部地域にとって必要不可欠な県立一志病院